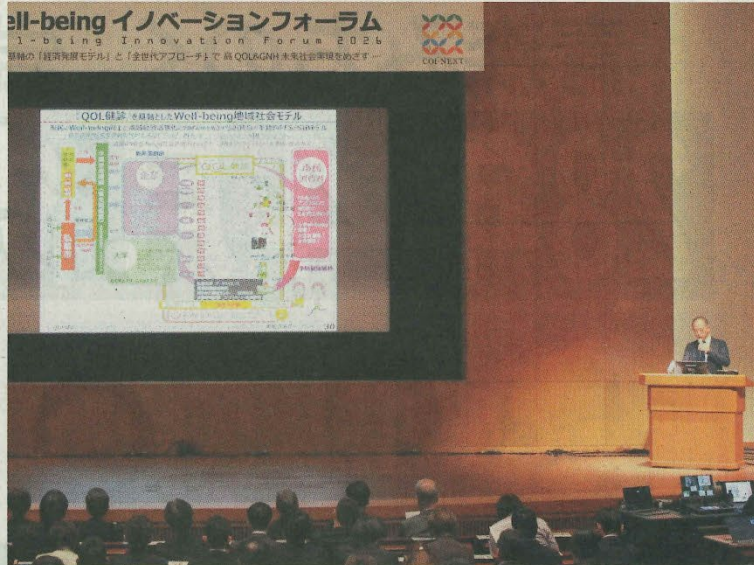


# 健康基軸の研究 世界へ

東京都内とオンライン開催 基調講演、討論も



## 弘大×県×弘前市主催 イノベーションフォーラム

弘前大学と県、弘前市が主催する「弘前大学COI-NEXT Well-being(ウェルビーイング)イノベーションフォーラム2026」が2日、東京都内とオンラインで同時開催された。国内外の3000人余りが聴講する中、同大COI-NEXTの研究者や参画企業の担当者らが健康を基軸とした経済発展モデル、全世代にアプローチするウェルビーイング(心身、社会的に健やかで幸せな状態)産業の創出や戦略、最新の研究内容を紹介した。

(稲葉智絵)

同大COI-NEXTの村下公一拠点長(副学長・教授、グローバルWell-being総合研究所副所長)は同大が目指す研究戦略について基調講演。冒頭、ヘルスケアAI(人工知能)分野における世界トップレベルの先端研究開発と人材育成の一体的推進に向け、9月30日に文部科学省「産業・科学革新人材事業(INSIGHT)」の採択を受けたことを報告した。続いて、岩木健康増進プロジェクトやいきいき健診などで収集した超多項目健康ビッグデータを基盤に創出された研究成果、社会実装の事例を挙げ、産学官民金連携の強固な地域共創体制を構築してきたことを説明。

さらに、疾患の早期予測モデルの精度向上と予防医療の支援につなげるため、今年度から健診と医療のデータ連携を開始したと紹介。世界的にウェルビーイング重視の流れになっているとした上で、「中核大学としての役割を弘前大が担う。そのためにも関係者が一体となって取り組みを進めていく」とした。

パネルディスカッションでは、参画企業担当者や中略重之県医師会健やか力推進副センター長ら16人が登壇。「ウェルビーイングな社会の実現のために弘前がやること」として、「楽しみながら受けるQOL健診の世界展開」「データ分析の解析の精度を高める」などの意見が出された。それを受け、村下拠点長は「弘前大の取り組み全体をパッケージ化・標準化し、世界に広めていく」と述べた。